

# 新河岸川流域水循環マスタープランの策定に向けて ～ 策定検討の経緯 ～

## 学識者、市民、行政による検討体制

新河岸川流域水循環マスタープランの策定検討にあたって、学識者・市民代表・行政(国・都県・自治体)がメンバーの検討委員会を組織しました。また、市民からの意見を集めるために市民部会・市民懇談会を、行政の意見を集めるために行政作業部会を開催しました。

このうち市民懇談会は、流域に住んでいる市民からの参加を募集して開催した会議です。

### 【検討委員会のメンバーの方々(学識者・市民代表)】



委員長  
守田優先生  
(芝浦工業大学)



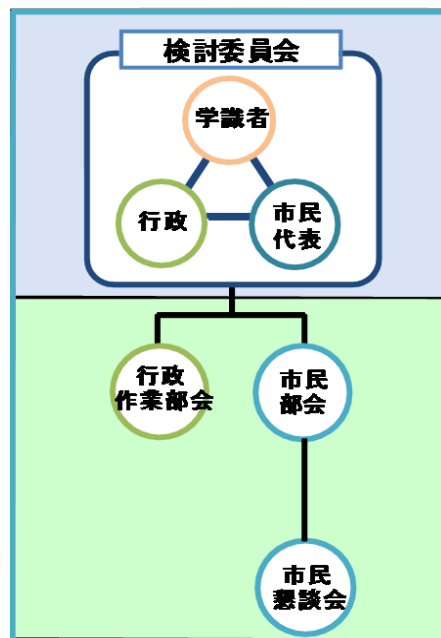
委員  
二瓶泰雄先生  
(東京理科大学)



委員  
知花武佳先生  
(東京大学)



委員  
菅谷輝美さん  
(市民代表)



## 3年間でさまざまな会議を開催 (合計18回)

新河岸川流域水循環マスタープランの策定までの3年間で、4回の検討委員会、4回の市民懇談会、3回の市民部会、4回の行政作業部会を開催しました。また、新河岸川の特徴を知るための現地視察会を2回開催しました。

### 各種会議の開催状況

開催日時	会議名
H27. 12. 21	第1回 準備会
H28. 3. 1	第1回 検討委員会
H28. 3. 10	現地視察会
H28. 8. 2	第1回 作業部会
H28. 9. 27	第1回 市民懇談会
H28. 10. 4	第2回 検討委員会
H28. 11. 13	現地視察会
H29. 2. 27	第2回 作業部会
H29. 3. 1	第1回 市民部会
H29. 3. 13	第2回 市民懇談会
H30. 1. 11	第3回 作業部会
H30. 2. 9	第2回 市民部会
H30. 3. 12	第3回 市民懇談会
H30. 3. 22	第3回 検討委員会
H30. 8. 30	第4回 作業部会
H30. 9. 13	第3回 市民部会
H30. 9. 25	第4回 市民懇談会
H30. 12. 25	第4回 検討委員会



検討委員会のように



市民部会のように



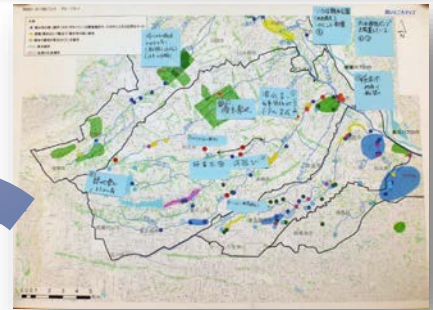
行政作業部会のように



市民懇談会のように

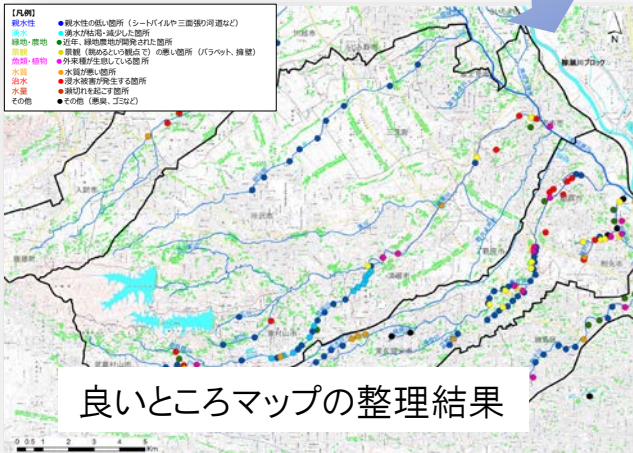
# マスタープランには市民の方々や行政機関などの意見を反映

市民懇談会や行政作業部会では、新河岸川流域の特徴を把握するために、良いところと悪いところについての意見を出し合いました。また、地域別に取り組むべき課題についても意見を出し合いました。出された意見は新河岸川流域水循環マスタープランに反映しています。



マップに付箋を貼って意見を聴取

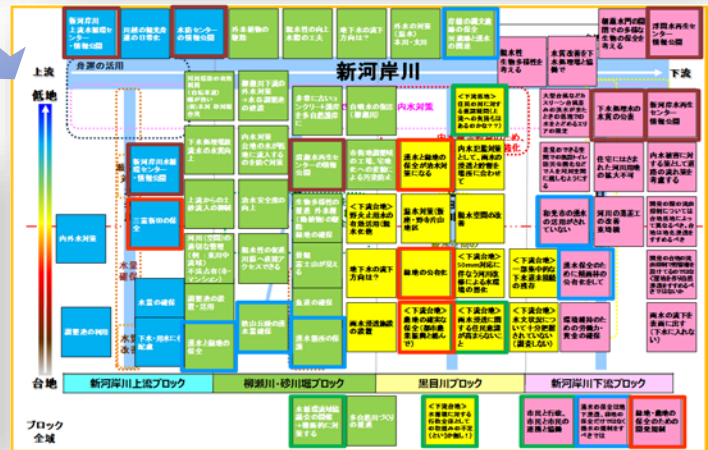
## 良いところマップと悪いところマップ



## 地域別に取り組むべき課題



模造紙に付箋を貼って意見を聴取



その他にも・・・

- ✓ マスタープランで設定している基本方針は、市民の方々や行政担当者からの意見から抽出された新河岸川流域全体で取り組む課題を踏まえて設定されています。
- ✓ 流域内に生息する魚類の情報は、行政による河川水辺の国勢調査の結果だけではなく、地元の市民の方からの情報も踏まえて整理しています。

## マスタープランの今後の展開

マスタープランで掲げる計画理念の実現に向けては、さまざまな取り組みを着実に実施していくことが必要です。そのためには、実施計画としてアクションプランを策定し、より具体的な目標や取り組み内容を検討していくことが重要となります。市民の方々からも継続的に議論をしたいという意見があることから、マスタープランのフォローアップ方針として、以下の3点を明記しました。これらのフォローアップ方針には、パイロットプランである柳瀬川流域で得た経験を反映していきます。

【フォローアップ体制の検討】/【アクションプランの策定・実施】/【アクションプランのモニタリング】

